

通常砂防事業事前評価調書

路線・河川等名	しょうぶたにがわ 菖蒲谷川	事業名	通常砂防事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所(区間)	南丹市園部町 ^{とのだに} 殿谷 地内		
事業概	目的	菖蒲谷川は南丹市の南西部に位置し、殿谷農事集会所（公民館）、消防団詰所、人家8戸、国道及び市道を保全対象とする危険溪流である。流域内には、土石流対策施設が整備されておらず、保全対象である道路は地域住民の重要な生活道路でもあることから、地元からの要望も強く、砂防堰堤を整備し、土砂災害から地域の安全を確保する必要がある。			
	内容	砂防堰堤：N = 1 基 事業費：1.3 億円			
	上位計画等	明日の京都 社会資本総合整備計画（防災・安全交付金）			
	スケジュール	着手年度：平成30年度 完成目標：平成34年度			
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	○保全対象には、殿谷農事集会所（公民館）、消防団詰所、人家8戸、国道及び市道が含まれ、土石流が発生した場合、地域住民に与える影響は大きい。			
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	○土石流等の土砂災害から下流に存在する人家、公共施設を守り、人命を保全する事業であり、投資効果は大きい。(B/C = 4.6)			
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	○流木を効率的に捕捉できる透過型の砂防えん堤を採用することで、コスト縮減を図る。			
総合評価		本事業は、土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から、新規事業着手の必要がある。			

よどかわ

しょうぶだにがわ

なんたんし そのべちよう とのだに

淀川水系 通常砂防事業 菖蒲谷川砂防堰堤 (南丹市園部町殿谷)

○事業の目的

本溪流は、京都府南丹市の南西部に位置し、淀川水系本梅川に流下する流域面積がA=0.074km²の土石流危険溪流(ぬ517-I)である。本流域は平均勾配1/5.8と急勾配であり、溪岸侵食・崩壊が著しく土砂流発生の危険性が高い溪流である。流域内には、土石流対策施設が整備されていないため、地元から土石流対策施設の整備要望が高い。下流域には多数の保全対象が存在していることから、早急に土石流捕捉設備を整備する必要がある。

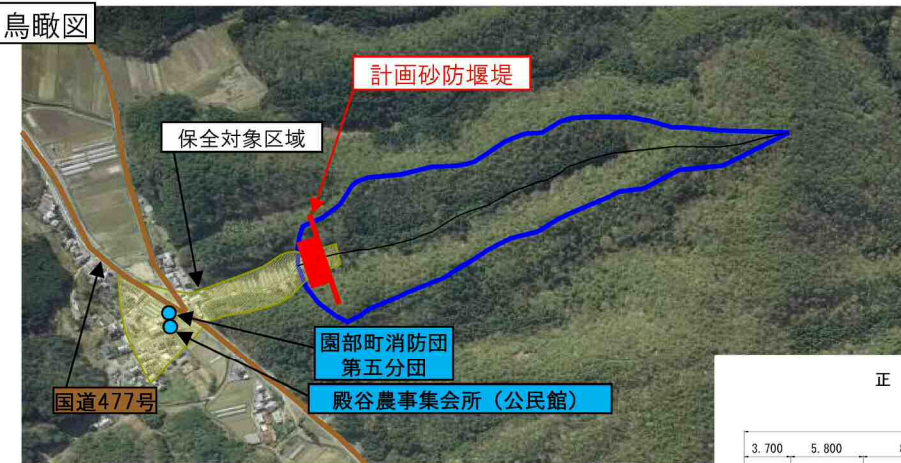
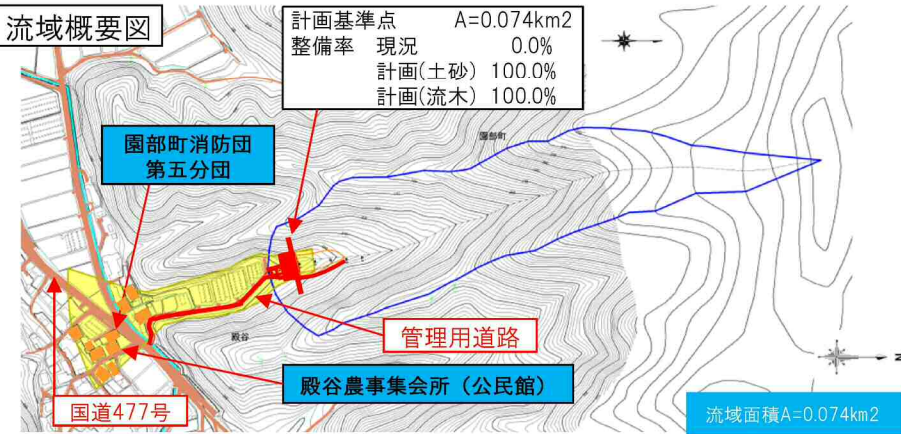
○保全対象 人家(8戸)、公共施設(殿谷農事集会所(公民館)、園部町消防団第五分団署)

国道477号 121m、市町村道 143m

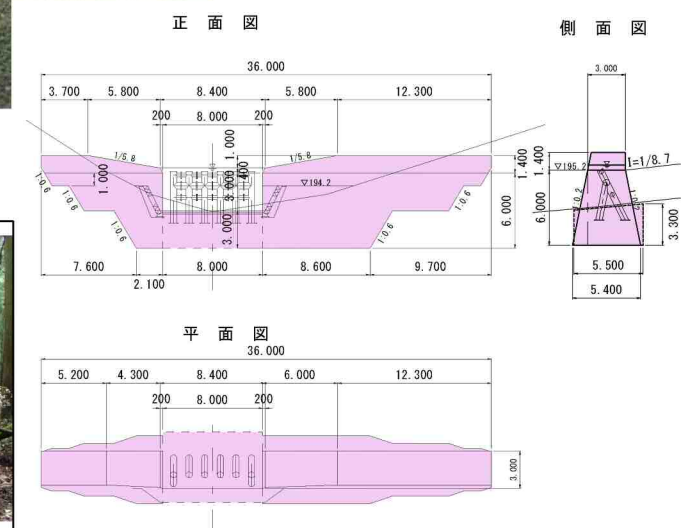
○土石流災害警戒区域・土石流災害特別警戒区域 溪流番号ぬ-517



全体事業費	128百万円	H30事業費	35百万円
事業期間	H30~H34		
事業内容	砂防堰堤1基 透過型堰堤工 H=6.0m L=36.0m V=656m ³		
	管理用道路 L=300m		



構造図



荒廃状況



『^わ環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成30年4月20日		
		作成部署	建設交通部砂防課		
事業名	菖蒲谷川通常砂防事業		地区名	南丹市園部町殿谷 地内	
概算事業費	1.3億円		事業期間	平成30年度～平成34年度	
事業概要	砂防えん堤1基				
目指すべき環境像	<p>事業箇所周辺には住宅地や国道があり、景観の配慮が必要である。事業実施に当たっては、景観に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。</p> <p>また、土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保するとともに、動植物の生育環境と長期的な景観の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。</p>				
関連する公共事業	なし				
評価項目					
主要な評価の視点		選定要否	施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)		溪流が荒廃しており、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。	砂防えん堤工及び溪流保全工を整備することで、土砂災害の原因となる溪流の大規模な土砂移動を抑制する。また、溪流の連続性を保つことができる透過型えん堤を採用する予定である。	
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)	○			4
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系	○			3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		溪流下流に人家等が位置しているため、工事期間中は工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。また、建設発生材は当該工事や近隣の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。	
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			3
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	○	当該溪流周辺は人家が多数存在する地域であるが、豊かな自然環境に恵まれていることから、植生等の環境の改変を最小限に止める必要がある。	材料の選定においては、地域の自然景観との調和を図るよう努める。地域住民に対して行う工事説明会等は、防災に対する意識向上を図り、地域住民との協働につながるよう検討する。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働	○			4
その他					
外部評価					